

【使用方法】

- (1) 検査結果に影響するので、採取部位に医薬品を投与していないことを必ず確認してください。検体採取の前に患部の洗浄が必要な場合は、医薬品や殺菌剤を含まない石けんを用いて洗浄するか、70%アルコールを含ませた綿で軽く拭ってください。
- (2) 検体採取にあたっては、滅菌したメスまたはピンセットを用いて病変の周辺部から鱗屑や被毛を採取します。被毛のサンプルを採るときは、皮膚から2cm以上の部分は刈り取って捨ててください。患部が爪の場合は、先端を切ったものが検体として利用できます。
- (3) ビンのふたを取る際は、汚染しないよう気を付けてください。
- (4) 検体を培地中に軽く埋め込むように置いてください。ふたを閉めるときは、ビン内の湿気を逃がすため、ゆるめに閉めてください。添付のラベルに症例の名前、採取部位、日付を記入し、ビンに貼ってください。検査期間中、ビンは22～25℃に維持してください。
- (5) 結果判定
培養後24時間から始めて72時間は定期的に培地の変化を観察してください。発育したコロニー直下の培地にわずかでも、黄色から赤色への色の変化が認められたら、皮膚糸状菌陽性と判定されます。時間が経つにつれて赤色が強くなり、変色部分も広がっていきます。検査期間は14日目までです。10日以内に増殖しない場合は、培地にもう一度検体を接種し直してください。まれに接種が不適切なため増殖しない場合があります。

【使用上の注意】

1. 冷凍または加熱は絶対に避けてください。
2. 使用済みのビン は地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分してください。

【分析の限界】

1. 一般的に直接鏡検で真菌要素が認められない症例に使用しても、原因菌が培養される確率はほとんどありません。治療後の予後判定に使用する以外は、直接鏡検陽性の症例にご使用ください。
2. 本品は、診察室で肉眼的に病原菌を容易に確認できるように開発されたもので、菌学的な研究を目的とするものではありません。
3. 本品を使用して菌種の同定を行うためには、菌学的な基礎知識と熟練を要しますので、主な使用法としてお勧めできません。

【保存方法】

直射日光を避け室温保存

【使用期限】

箱に表示

皮膚糸状菌鑑別用培地

ダーマキット

皮膚糸状菌鑑別用培地

ダーマキット

ダーマキットは、コンパニオンアニマル（犬、猫）の皮膚糸状菌症の原因菌を簡単かつ迅速に鑑別するための特殊培地です。本培地には、pH指示薬と非病原性の雑菌の増殖を選択的に阻害する抗菌剤が含まれており、*Microsporum* 属、*Trichophyton* 属、*Epidermophyton* 属が発育初期に産生するアルカリ性代謝物により培地が赤く変色することで鑑別ができます。

【包装内容】

1. 鑑別用培養ビン ————— 10 本
2. ラベルシール ————— 10 枚 /1 シート
3. 簡易スタンド ————— 1 個
4. 添付文書 ————— 1 部

【必要な器具】 ※キットには含まれません

1. 滅菌済みメス
2. 滅菌済みピンセット、ハサミまたは爪切り

輸入先



輸入発売元



皮膚糸状菌の確認

代表的な皮膚糸状菌である *Microsporum* 属、*Trichophyton* 属、*Epidermophyton* 属は増殖にともないアルカリ性代謝産物を産生するため、ダーマキットに含まれるpH指示薬によって培地が赤く変色します。皮膚糸状菌は、培地中の炭水化物よりも先にタンパク質を消費しますが、雑菌はタンパク質よりもまず炭水化物を消費します。また、ダーマキットには非病原性の雑菌の増殖を選択的に阻害する抗菌剤が含まれており、これらが結果に干渉することはほとんどありません。

皮膚糸状菌コロニーの特徴

コロニーは特徴的な外観を示します。図および表を参照してください。結果を判読する上で色調は大変重要です。皮膚糸状菌のコロニーは白色または黄色っぽく、雑菌は暗色で、灰色、黒または緑色を呈します。正確に同定するにはサブロー寒天培地に移植してください。

主な皮膚糸状菌コロニーの形態

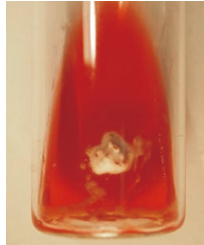
ダーマキットで 25℃、10日間培養したコロニーの特徴



T.mentagrophytes



T.rubrum



T.tonsurans



M.canis



M.gypseum



E.floccosum

▶ *Trichophyton* 属

<i>T.mentagrophytes</i>	扁平で顆粒状粉末コロニー、およびコロニーの中央が白色短絨毛状、周辺表面が粉末状を呈する。
<i>T.rubrum</i>	白色～黄色短絨毛状のコロニーで表面が粉末状を呈することもある。
<i>T.tonsurans</i>	白色短絨毛性を呈するが表面が粉末状を呈する。

▶ *Microsporum* 属

<i>M.canis</i>	白色で中央が絨毛状で周辺の菌糸が薄く放射状を呈する。
<i>M.gypseum</i>	辺縁部は白色短絨毛性を呈するが表面全体は粉末状を呈する。

▶ *Epidermophyton* 属

<i>E.floccosum</i>	白色～黄色短絨毛状のコロニーを呈する。
--------------------	---------------------

判定のポイント >>>



培養5日目 表面



培養5日目 裏面

Microsporum canis (培養5日目)

白色短絨毛状コロニー。
培地裏面から観察すると発育したコロニー周囲のみ赤く変色している。このコロニー直下および周辺の赤色変化が認められれば、皮膚糸状菌の可能性が高い。

雑菌のコロニー形態



Aspergillus fumigatus



Aspergillus niger



Exophiala jeanselmei

<i>Aspergillus fumigatus</i>	コロニーの中央が緑色粉末状で周辺が白色短絨毛状を呈する。
<i>Aspergillus niger</i>	コロニーの中央が黒色粉末状で周辺が白色絨毛状を呈する。
<i>Exophiala jeanselmei</i>	黒色短絨毛状～表面が粉末状のコロニー。